

旧街道ウォーク★338

古代東海道の駅路を歩こう！ 28 (向原～西ヶ原～田端～南千住)

日時 ■ 2008年10月19日(日) 11:00～17:00頃

集合 ■ 地下鉄有楽町線+副都心線/千川駅(1番出口地上)

※急行・準急は止まりません。各駅停車で池袋から2駅4分です。

コース ■ 向原(千川駅)～大山町～板橋<昼食休憩>～西ヶ原(古代豊島駅推定地)～田端～道灌山～三河島～三ノ輪～南千住<街道ルート約10km>

その他 ■ 雨天の場合は延期します(日程未定)。判断がつかない場合は、主催者までご連絡下さい。

連絡先 ■ 大竹 亮(旧街道ウォーク代表、NPO全国街道交流会議理事)

■今回の活動について

武蔵国の古代東海道を、武蔵国府(府中)から下総国府(市川)に向けて4回で歩いていますが、今回はその3回目です。まず、向原から千川上水路(尾根筋)に沿って北東に向かい、川越街道大山、中山道板橋と江戸時代の街道ゆかりの地を通り、谷田川を渡って西ヶ原に至ります。ここは武蔵野台地の東端で、ここから先ははるか下総台地までの間、東京低地が広がっています。西ヶ原では古代豊島郡衙が発掘され、古代豊島駅もあったと推定されています。その先、台地上を南東に向かい、西日暮里(道灌山)の切り通しから東京低地に下ります。そして、一路真東を目指して、三河島、三ノ輪から日光街道南千住に到達します。台地や低地の平坦な道を通して最短距離で下総国府(市川)を目指しており、古代道の特徴が伺えます。

なお、近年では発掘や研究が進んでいるものの、古代の道筋を正確に明らかにすることは困難です。ここでは、古代道の特徴を考慮しつつ、現在の道に近似して歩きます。このような古代官道推定コースは、江戸時代の街道とはその性格や趣きが異なりますが、新しい発見があるはずです。ふるってご参加下さい。

* * * *

■古代の道について

古代官道：奈良・平安の中央集権国家時代には、都から全国に向けて7つの「官道」が整備されました。約16kmごとに駅家が設けられ、幅員6～12mの立派な側溝付舗装道路がほぼ一直線の最短距離で各地の国府を結んでいたとされています。従来は記録文書から推定するしかありませんでしたが、近年では各地で発掘等による発見が続き、その実態が判明しつつあります。

古代東海道：都から海沿いに関東に至る行政圏で、官道の名称でもあります。古代東海道の道筋は時代によって変遷し、初期の道筋は、三浦半島から房総半島へ東京湾を渡っていました。これに対し、相模国府(平塚)、武蔵国府(府中)、下総国府(市川)を経て常陸国府(石岡)へ至っていたのが中期の道筋です。当会では、1999年～2001年にかけて初期と後期の古代東海道の一部を歩いていますが、今年は中期のルートを探索しています。

■沿道の見どころ

平塚神社●武蔵野台地の東端の崖上に建つ古社。中世豊島氏の本拠地・平塚城があった。隣接地から古代豊島郡衙が発掘され、豊島駅の推定地でもあり、古代中世を通じて東京北半分の中心であった。源頼義・義家が奥州遠征の折に逗留し、下賜された甲冑を埋めた塚を祀ったのが由来と言われている。長い参道の並木と質素な佇まいに源氏ゆかりの古社の風格がただよっている。

田端文士村●大正時代、東京の郊外住宅地であった田端に、芥川龍之介をはじめ多数の文士や陶芸家が住み、文士村と呼ばれた。丘と坂が交錯するこの土地の原風景が、芸術家の心をとらえたのであろうか。

三ノ輪浄閑寺●江戸時代に新吉原の多数の遊女を吊ったことから、通称「投げ込み寺」として知られる。